

研究功労者表彰候補者業績

1 候補者所属・職・氏名

三重県農業研究所 生産技術研究室 農産研究課 主幹研究員 山川智大

2 業績名

水稻良質良食味品種の育成

3 業績概要

三重県は以前より西日本有数の早場米コシヒカリ生産県として評価を得てきたが、コシヒカリへの過度な一極集中が、機械・施設の利用効率の低下ばかりでなく、適期収穫を困難にし米の品質低下につながっていた。そこで三重県では、コシヒカリと収穫時期の異なる良質良食味品種を開発・普及させることによりコシヒカリへの一極集中を緩和し、県産米の品質改善とブランド力の向上を図ることを目的として、平成 2 年より「水稻の新品種開発事業」を開始し、新品種を開発を進めてきた。候補者はほぼ一貫して水稻の新品種開発に従事し、三重県の気候風土や栽培体系に適した品種を開発し、県産米の品質改善と知名度の向上に寄与してきた。主な業績は以下のとおりである。

(1) 「みえのえみ」の育成

コシヒカリより早く収穫できる早生の良質良食味品種の開発を目標に 1997 年に育成。最盛期は三重県内で約 700ha 作付けされ、現在も家庭用ほか学校給食等にも活用されている。

(2) 「みえのゆめ」の育成

コシヒカリより収穫時期が遅い良質な中生品種の開発を目標に 2001 年に育成。最盛期は県内で約 1,000ha 作付けされ、現在も家庭用のほか業務用をはじめとした様々な用途に利用されている。

(3) 「神の穂」の育成

三重県酒造組合からの要望を受け、三重県の気候風土に適した多収の酒造好適米品種の開発を目標に 2007 年に育成。神の穂を原料とした日本酒は、ふくらみのある優しい味わいになることが評価され、現在では県内の半数以上の蔵元が利用し、三重県の純米酒の生産量向上に寄与している。

(4) 「三重 23 号」の育成

近年、夏季の高温傾向により県産米の品質低下が問題となっていたことから、高温登熟性に優れる早生品種「三重 23 号」を 2011 年に育成。「三重 23 号」の中で一定の品質基準をクリアしたものだけを「結びの神」という名称で販売しており、コシヒカリとは異なるあっさりした食感と、冷めても食味の低下が少ないという特長から、家庭用だけでなく寿司米をはじめ様々な場面で活用が進んでいる。

表彰状

山川智大殿

業績名 水稲良質良食味品種の育成

あなたは右の多年にわたる優れた
研究業績により農業技術の振興に
尽くされた功績はきわめて顕著で
あると認め研究功労者としてここに
表彰します

令和元年六月二十日

全国農業関係試験研究場所長会

会長 塚本心一郎

